

日薬情発第 216 号  
令和 5 年 3 月 10 日

都道府県薬剤師会会長 殿

日本薬剤師会  
会長 山本 信夫  
(会長印省略)

新たに薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた  
医薬品の適応外使用について

平素より、本会会務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

標記について、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長及び同局医薬安全  
対策課長より、別添のとおり通知がありましたのでお知らせいたします。

会務ご多用のところ恐縮ながら、貴会会員にご周知下さるようお願い申し上げます。



薬生薬審発 0303 第 5 号  
薬生安発 0303 第 2 号  
令和 5 年 3 月 3 日

各 関 係 団 体 の 長 殿  
独立行政法人医薬品医療機器総合機構 理事長 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長  
( 公 印 省 略 )

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長  
( 公 印 省 略 )

新たに薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する  
事前評価を受けた医薬品の適応外使用について

標記について、別添写しのとおり、各都道府県、保健所設置市、特別区衛生主管部（局）長宛て通知しましたのでお知らせします。各関係団体の長におかれましては、団体内会員等への周知方よろしくお願ひします。

写

薬生薬審発 0303 第 4 号  
薬生安発 0303 第 1 号  
令和 5 年 3 月 3 日

各 

都 道 府 県
保健所設置市
特 別 区

 衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長  
( 公 印 省 略 )

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長  
( 公 印 省 略 )

新たに薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する  
事前評価を受けた医薬品の適応外使用について

薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品については、平成 22 年 8 月 30 日付け薬食審査発 0830 第 9 号・薬食安発 0830 第 1 号厚生労働省医薬食品局審査管理課長及び安全対策課長連名通知「薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品の適応外使用について」（以下「連名通知」という。）にて各都道府県衛生主管部（局）長宛て通知しましたが、令和 5 年 3 月 3 日開催の薬事・食品衛生審議会医薬品第一部会において、別添の医薬品について、医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議報告書に基づき、公知申請についての事前評価が行われ、公知申請を行っても差し支えないとされました。

つきましては、別添の医薬品について、連名通知における取扱いと同様の取扱いを行っていただきますよう、貴管下関係医療機関及び関係製造販売者に対する周知徹底及び御指導方よろしくお願いいたします。

なお、本通知の写しについて、別記の関係団体の長、独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長及び各地方厚生局長宛てに発出するので、念のため申し添えます。

[別添]

1. 一般名：リツキシマブ（遺伝子組換え）  
販売名：リツキサン点滴静注 100 mg、同点滴静注 500 mg  
会社名：全薬工業株式会社

追記される予定の効能・効果：  
既存治療で効果不十分なループス腎炎

追記される予定の効能・効果に関連する注意：  
〈既存治療で効果不十分なループス腎炎〉  
・既存治療（ステロイド、免疫抑制剤等）で十分な効果が得られない患者に対して本剤の投与を考慮すること。また、診療ガイドライン等の最新の情報を参考に、本剤の投与が適切と判断される患者に使用すること。

追記される予定の用法・用量：  
通常、リツキシマブ（遺伝子組換え）として1回量 375 mg/m<sup>2</sup>を1週間間隔で4回点滴静注する。

追記される予定の用法・用量に関連する注意：  
〈既存治療で効果不十分なループス腎炎〉  
・原則として副腎皮質ステロイドと併用すること。  
・再投与時の有効性及び安全性に関する情報は限られているため、本剤の再投与に関しては、実施の可否を慎重に検討すること。

2. 一般名：インドシアニングリーン  
販売名：ジアグノグリーン注射用 25 mg  
会社名：第一三共株式会社

追記される予定の効能・効果：  
肝外胆管の造影

追記される予定の用法・用量：  
インドシアニンググリーンとして2.5 mgを1 mLの注射用水で溶解し、静脈内投与する。

3. 一般名：メチルプレドニゾンコハク酸エステルナトリウム  
販売名：ソル・メドロール静注用 40 mg、同 125 mg、同 500 mg、  
同 1000 mg  
会社名：ファイザー株式会社

追記される予定の効能・効果：

川崎病の急性期（重症であり、冠動脈障害の発生の危険がある場合）

追記される予定の効能・効果に関連する注意：

〈川崎病の急性期（重症であり、冠動脈障害の発生の危険がある場合）〉

- ・ 静注用免疫グロブリン不応例又は静注用免疫グロブリン不応予測例に投与すること。

追記される予定の用法・用量：

通常、メチルプレドニゾンとして 30 mg/kg（最大 1000 mg）を 1 日 1 回、患者の状態に応じて 1～3 日間点滴静注する。

## 別記

日本製薬団体連合会	会長
米国研究製薬工業協会 在日執行委員会	委員長
一般社団法人欧州製薬団体連合会	会長
公益社団法人日本医師会	担当理事
公益社団法人日本薬剤師会	会長
一般社団法人日本病院薬剤師会	会長
独立行政法人医薬品医療機器総合機構	理事長